



ノンクラスプデンチャー・アーム 維持の考察

大村和明

Kazuaki Ômura
熊本県歯科技工士会所属



今回のテーマとして、金属床とノンクラスプデンチャー併用で行う症例を紹介する。

fig.1



fig.1 設計

設計上、両側遊離端であるため、機能している時、遠心に引っ張られると考えられる (fig.1)。したがって3|3の維持装置に負担がかかり、材料の限界を超えた場合、破折の原因となる。使用材料の範囲内でベストを尽くすため、本来金属と床用レジンには接着しないので、機械的な維持が必要となる (fig.2)。

そこで、3|3遠心側の隣接面の脚をサベイラインより角度をつけ、金属床の隣接面板に穴を開け、隣接面板の内面と外側に床用レジンで挟む。さらにビーズとリベットで機械的維持として床用レジンの強度を増すようにして、義歯を成功に導く一つの方法ではないかと思う (fig.3,4)。

参考にしていただければ幸いです (fig.5,6)

fig.2



fig.2 メタルプレート

fig.3



fig.3 左側

fig.4



fig.4 右側

fig.5



fig.5 内面

fig.6



fig.6 左側より